

# I はじめに

大田区立図書館は、均質で公平なサービスを目標に掲げ、その実現を図るため図書館を適切に配置する計画に沿って、順次開設してきました。昭和31年に本区で最初の区立図書館である池上図書館が開館しました。その後、2館が設置され、昭和45年には、中央館の機能を合わせ持つ大田図書館が開館しました。その後も建設が進み、現在は図書館数16、その他図書館類似施設1館があります。

令和2年度は、次の項目を重点に事業を実施し、区民の学びを支える図書館づくりを推進します。

## 〔1〕おおた教育ビジョン事業「地域の特色を生かした図書館の整備」

老朽化が進んでいる図書館の改修を実施するとともに、改修にあたっては、ICTの活用などによる図書館の利便性の向上や地域特性に対応した情報拠点として区民が主体的に学ぶ場となるよう整備を行います。

令和2年度は、池上図書館の移転及び地域図書館の機能維持を目的とした改修等を進めています。

## 〔2〕ICタグシステムの整備

図書館利用者の利便性向上のため、ICタグを活用したシステムの整備を行います。

令和2年度は、大田区立図書館全館および大田文化の森情報館へ、自動貸出機・自動返却機、出入口ゲート等システム機器を設置します。また、池上図書館（移転後）には予約資料自動受取機を設置します。

## 〔3〕学校図書館との連携

おおた教育振興プラン2014（平成26年度～平成30年度）に基づき、平成27年度から図書館業務の枠組みの中で、区内全小中学校を対象に継続的な支援を行っています。

平成28年度から区内小中学校に導入され、平成30年度に全校に拡充された読書学習司書と連携し、児童・生徒の読書活動を推進しています。

さらに、平成30年度に「総合学習用団体貸出」のうち1件で30冊以上になる場合、学校への郵送による貸出及び返却を選択することができるようになりました。

令和2年度もおおた教育ビジョンに基づき、引き続き連携をとりながら、さらなる支援を行っていきます。